

2023 年度 北海道雪氷賞

「北の風花賞」

石井 日菜 氏 （北見工業大学大学院 工学研究科）

論文名： 「北海道オホーツク地域における湿雪と気象要素
-2022 年 12 月下旬の湿雪とその影響-」

選考理由： 本論文は、オホーツク海側で発生した厳冬期における湿雪の特性と、その湿雪をもたらした気象要素の特徴について整理された論文になります。論文中では丁寧なデータ解析がなされており、被害をもたらした厳冬期の湿雪に関する事例研究としては価値が高いと考えられます。まだ調査内容については不足している点も見受けられますが、気象関連の論文は 1～2 年経過してから報告されることが多い中、昨年度の事象を素早くまとめ報告したことに大変意義があると考えます。気候変動の観点からも今後の研究の発展が期待されることから、「北の風花賞」受賞論文として選考されました。

「北の六華賞」

永田 泰浩 氏 （北海道開発技術センター）

論文名： 「車載カメラの画像を用いた吹雪時の視界状況評価」

選考理由： 吹雪に伴う視程障害は、交通障害や道路の通行止めを引き起こすなど社会的な影響が大きいものの、吹雪の状態は時空間的な変動が大きいため、実態の把握に課題があります。視程障害環境において、車載型カメラ画像収集システムを利用し、冬期を通じて安定的に視界状況評価のデータを収集・蓄積する実用的なしくみを構築された本論文の吹雪時の視界状況の評価技術は、従来の定点観測では不十分だった穴を埋める手段として今後の発展が望まれます。さらなる改善点が示されている段階ではありますが、既往研究のレビューを含む研究論文として内容は高く評価できること、また本研究の進展により吹雪対策・対応への社会貢献が期待されることから、北海道の雪氷研究に貢献する論文として、「北の六華賞」の受賞論文として選考されました。

「北の蛍雪賞」

石本 敬志 氏 (NPO 法人雪氷ネットワーク)

受賞名： 道路吹雪対策技術の発展ならびに支部活動への貢献

選考理由： 石本敬志氏は、昭和 48 年に北海道開発局土木研究所に入所されて以降、長年にわたり道路の吹雪対策に関する研究に取り組まれてきました。例えば、防雪切土の防雪効果を解明してその設計方法を確立され、また道路防雪林における視程障害緩和効果を明らかにされました。これらはいずれも国内では初めての試みで、その研究は吹雪対策の整備促進と普及に寄与し、吹雪災害防止に多大な貢献をされております。さらに、降雪や吹雪による視程の特性に着目し、画像処理により視程を計測する手法を開発されたことも、冬期道路の安全性向上に寄与するものとして評価されます。また、2013 年～2014 年度には北海道支部長、そのほかにも日本雪氷学会の理事や編集委員長を務められるなど、長きに渡って日本雪氷学会北海道支部の発展に重要な役割を果たされています。以上のことから、石本氏に「北の蛍雪賞」を贈呈致します。

以上